

避難のポイント

正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



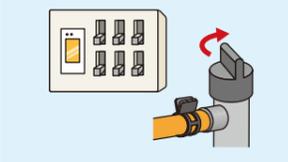
徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなりますので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、電気ブレーカーを落としガスの元栓を閉め避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



要配慮者への協力

お年寄りや子供などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りが避難する場合には、協力しましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域※1やアンダーパス※2を避けるようにしましょう。



万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装での避難を

避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。

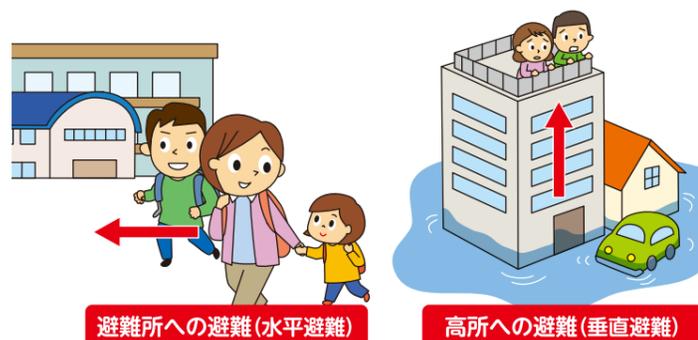


※1 土砂災害警戒区域…崩壊が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれのある区域です。
 ※2 アンダーパス…橋梁等と平面交叉を避けるため橋梁下部を通過させる地下道です。路面が低くなっているところは、大雨の際に水がたまる恐れがあるので、車で入らないようにしましょう。

浸水時の水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



風水害とは

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量 (mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る 	どしゃ降り 	バケツをひっくり返したように降る 	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) 	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

